

試験研究成果普及情報

部門	林業	対象	研究
課題名: 含水率が低く高品質な原木シイタケのつくり方			
[要約] 湿度が高い時期、生育中のシイタケに扇風機で風を当てることにより、含水率が低い高品質なものを生産できる。また、植菌数を多くする多植栽培や着生数を摘芽で人為的に少なくすることにより、大型で肉厚なものを多量に生産できる。			
キーワード(専門区分) 食用きのこ (研究対象)食用きのこーシイタケ (フリーキーワード)高品質、含水率、多植栽培、摘芽			
実施機関名 (主査)森林研究センター特用林産研究室 (協力機関) (実施期間)1998～2001年			

[目的及び背景]

近年、シイタケの原木栽培を取り巻く環境は、安価な輸入シイタケの増大による市況の低迷や、菌床栽培の普及による競争の激化、生産者の高齢化や原木価格の高騰など厳しさを増している。このような中で原木シイタケが生き残る一つの方策として、含水率が低く、大型・肉厚で付加価値が高いものを生産することが考えられる。そこで、そのような高品質な原木シイタケの作り方について検討を行った。

[成果内容]

1. 扇風機で風を当て生育させたシイタケは、無処理に比べ含水率が低下し、市場性が高いものが生産できた(図-1)。
2. 植菌数が多いほだ木(多植栽培)は植菌1年目から発生が始まり、樹皮の厚さの影響をあまり受けず、大型で肉厚なシイタケを多量に生産できた(図-2)。
3. ほだ木1本当りの子実体着生数を摘芽により人為的に少なくした結果、残した子実体は非常に大型になった(図-3)。

[留意事項]

1. 扇風機の効果は湿度等の影響を受けるため、生育中の湿度とどのような子実体を生産したいのかという点から、扇風機との距離及び処理時間を決めるのが良い。
2. 多植栽培は従来よりも種菌代、植菌手間がかかるため、導入に当たっては長所、短所を十分考える必要がある。
3. ほだ木材積や使用回数、品種、目標とする大きさなどにより、摘芽数は変わってくる。また、摘芽を強くすると全体の収量が減少する。

[普及対象地域]

県下全域の原木シイタケ生産者

[行政上の措置]

高品質な原木シイタケのPR及び販売ルートの整備を推進する。

[普及状況]

[成果の概要]

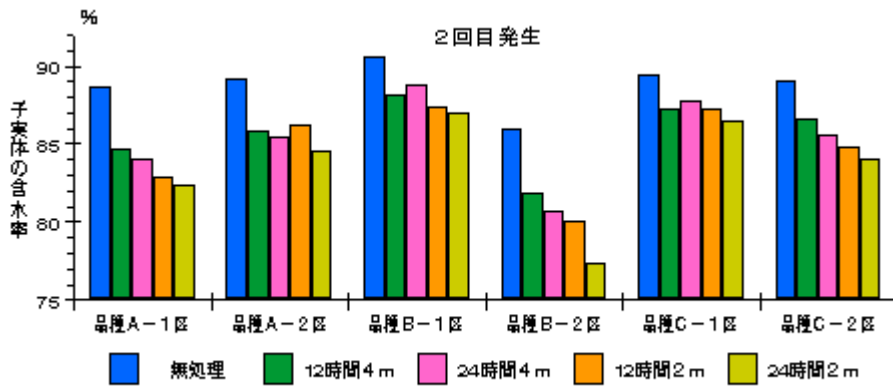


図-1 扇風機の処理時間及びひもだ木までの距離と子実体含水率の関係

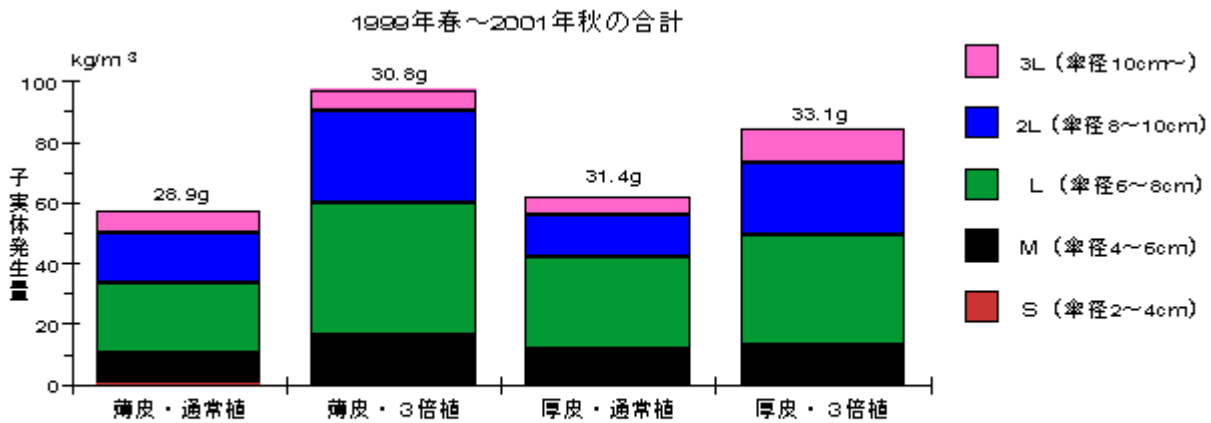


図-2 多植栽培試験における子実体発生量 (1999年植菌)

注) 棒グラフ上の数字は平均1個重

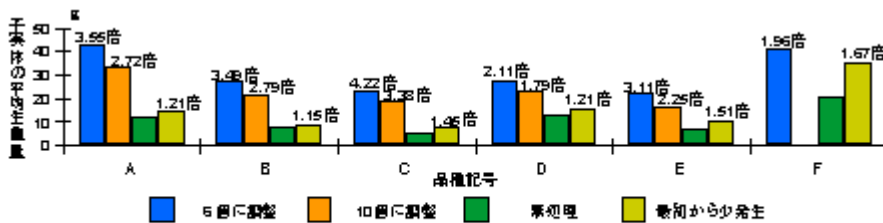


図-3 子実体着生数の調整試験における子実体の平均生重量

注) 棒グラフ上の数字は各品種ごとの無処理を1とした場合の割合

[発表及び関連文献]

- (1)岩澤勝巳: 原木シイタケ栽培における子実体数の調整、日林関東支論52、159~160、2000
- (2)岩澤勝巳: 含水率が低く高品質な原木シイタケのつくり方、平成13年度新しい農林業技術、1~7、2002